

「新しい博物館機能を考えるワークショップ」の結果

赤澤宏樹^{1)*}・橋本佳延²⁾

The Result of the Workshop Enforced to Examine the Function of the New Museum

Hiroki AKAZAWA^{1)*}・Yoshinobu HASHIMOTO²⁾

要 旨

博物館に望まれる展示内容を中心に、人と自然の博物館とパートナーシップを持ちながら共に全県エコ・ネット・ミュージアム構想を実現させる県民のあり方や、地域の自然環境を博物館とともに知り、学び、伝える仕組みについて検討すべく、「新しい博物館機能を考えるワークショップ」を実施した。その結果、展示の対象・機能として、家族連れの楽しみから社会人の学習まで多世代の生涯学習の場として機能すべきことから、今後の人と自然の博物館の展示は「難しいことを平易に説明する」だけでなく「難しいことを全く違う手法で体験させる・感じさせる」ことが必要であることが整理された。また、人と自然の博物館と地域との連携については、研究員が日常の調査・研究・啓発に用いる手法を用いて、地域で調査・研究を県民とともに行うことを、生涯学習の手法として展開させる必要があることが整理された。

キーワード：新しい展示機能、地域との連携、生涯学習

はじめに

兵庫県立人と自然の博物館は、平成15年度で開館10年を迎えた。この間に、少子高齢化や児童の理科離れ、各種の環境問題など様々な社会の変化が進み、社会教育施設として博物館が担うべき役割も大きく変化していると考えられる。また、兵庫県立の施設として広く県民に対してサービスを提供すべきであり、従来の展示や資料を中心とした固定施設型のサービスだけでは不十分である。

この社会状況と県立の博物館であることをふまえつつ、社会教育施設として今求められているニーズを整理し、新しい博物館機能として具体方策を展開することが強く求められている。現在、人と自然の博物館ではキャラバン事業を実施し、県下10地域に展示、セミナー、リサーチといった複合サービスを提供しているが、この試みは単に県下各地域への直接的なサービスに留まらず、今後の人と自然の博物館と地域とのパートナーシップをも見据えたものであり、「博物館の新展開」で提唱した全

県エコ・ネット・ミュージアム構想につながるものである。現時点でキャラバン事業などを通して出てくるニーズは、この後の展示および資料を中心とし人材や情報も含めた博物館総体としての新機能へのニーズに近いものである。

そこで本稿では、人と自然の博物館へのニーズを把握するために実施した「新しい博物館機能を考えるワークショップ」の結果を整理する。この結果を元に、博物館に望まれる展示内容を中心に、人と自然の博物館とパートナーシップを持ちながら共に全県エコ・ネット・ミュージアム構想を実現させる県民のあり方、地域の自然環境を博物館とともに知り、学び、伝える仕組みについて整理する。

方 法

ワークショップの実施方法

「新しい博物館機能を考えるワークショップ」は、平成

¹⁾ 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Division of Environmental Management, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

²⁾ 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Division of Ecological Restoration, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

*兼任：姫路工業大学 自然・環境科学研究所 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Institute of Natural and Environmental Sciences, Himeji Institute of Technology; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

15年11月29日の13時から17時までの4時間のプログラムとして、人と自然の博物館大セミナー室にて開催した。テーマは「新しい博物館機能を考える」と設定し、以下に記す4ステップによって進行した。

ステップ1は、「館員が考えたこれからの博物館」と題して、「博物館の新展開」に伴う新規事業から研究員がネクスト・ミュージアム構想として検討してきた案まで、新しい博物館機能の一例として提示した。

ステップ2は、「ひとはくをよ〜く見てみよう」と題して、研究員のガイドと共に収蔵庫を見学し、現在の博物館機能を検証する機会を設けた。3班に分かれて見学した後に、見学会チェックシートに従って「情報の活用」、「収蔵品の種類・量」、「収蔵品の保全性」の3つの視点で評価してもらい、結果を回収しその場で集計した。評価は1から5の5段階評価とし、3（普通）を中心に数字が大きいほど評価が高い。展示の検証については、事前に館内を自由見学する時間を設けた。また、予定していたジーンファームの見学のみ雨天により中止としたため、本稿ではこれに関わる情報は削除した。

ステップ3は、「ひとはくとつきあおう」と題して、ステップ1および2で提示した博物館の現状と新しい取り組みをふまえつつ、今後の参加者自身と人と自然の博物館とのつきあい方を検討した。つきあい方については、「こんなひとはくに行きたい」をテーマに展示および資料を中心とした本館機能について、「ひとはくとこんなことがしたい」をテーマに地域（参加者自身）との連携について検討した。これらの結果をグループ毎に発表した後、ステップ4として「本日のふりかえり」と題して本企画を検証した。

対象

平成14年度および平成15年度キャラバン地域実行委員会委員と、セミナー等において高頻度に博物館を利用する県民、NPO人と自然の会を将来の博物館の連携先および代表的な利用者として想定し、ワークショップの参加者として招聘した。キャラバン地域実行委員会委員から31名、高頻度に博物館を利用する県民から5名、NPO人と自然の会から3名の出席があった。なお、参加者の人と自然の博物館の利用頻度は、図1に示すように月に数回が10%、めったに来ないが59%、初めてが10%、その他が21%であり、高頻度利用者およびNPO人と自然の会以外の参加者は、利用頻度が低いことが伺える。

ワークショップの結果

ここでは、ワークショップを通して具体的な意見が得られたステップ2およびステップ3について、結果を整理する。図2～4に現在の博物館機能の検証結果、図5に

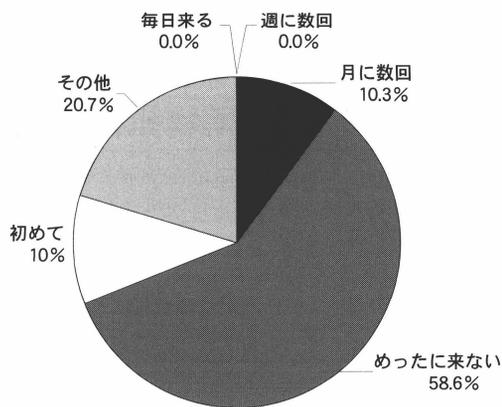


図1 ワークショップ参加者の来館歴

検討項目の関係、図6から図12に各WSグループの検討結果を示す。

STEP2「ひとはくをよ〜く見てみよう」

結果は、収蔵品の保全性から収蔵品の種類・量、情報の活用の順に評価が低くなり、資料の収蔵機能については評価が高いもののその情報の活用については今後の改善策が望まれる集計結果となった。

最も全体評価の低かった情報の活用について今後の課題を具体的にみると、「地域の方に伝わっていない」、「全く末端まで今のところどいていません。子供達に身近にふれられたら、と思います。おもしろく、興味を引くように。」、「収蔵庫の標本が一般に十分に紹介されている方法が少ないのでは。」など、専門家のための収蔵庫に対して意義を認めている反面、その情報を利用者が直接活用できることが求められていることがわかる。

STEP3「ひとはくとつきあおう」

新しい博物館機能に関するワークショップ参加者の提案や考えを整理するために、グループ討議を行った。グループ討議は、全1回のワークショップということもあり、各参加者の意見を効率よく把握するために図5に示した検討項目の関係を元に整理した。また、検討結果を各グループで発表した際の全体評価を、「タイトル」として添付した。図6から図12に各グループの検討結果を示す。

総じて見ると、本館の展示品についてはSTEP2をふまえ、収蔵庫や自然・環境情報の活用に関する意見が多く、その方策としての展示方法はとにかく「わかりやすさ」が求められていることがわかる。これは従来から指摘されている、人と自然の博物館の展示のわかりにくさに対する直接的な意見である。展示の対象・機能として、家族連れの楽しみから社会人の学習まで幅広く求められており、多世代の生涯学習の場として機能すべきことから、今後の人と自然の博物館の展示は「難しいことを平易に

点数	人数	理由
1	1人	・地域の方に伝わっていない
2	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとなくわかりにくい ・フィードバックがあまりできていないのでは。又知りたいことに対応していただけるのか？ ・全く末端まで今のところとどいていません。子供達に身近にふれられたら、と思います。おもしろく、興味を引くように ・検索は？研究員の記憶による所が大きいのではないか。環境系は整理整頓がしにくそう ・よくわからない… ・収蔵庫の標本が一般に充分に紹介されている方法が少ないのでは ・情報の伝達については今日の見学では十分に評価できなかった ・説明がないのでわからない
3	17人	<ul style="list-style-type: none"> ・研究用ばかりと思っていたのでよくわかりません ・テーマ性のある企画展示で標本を見ることができのですが、その見方・留意点も指摘されているとうれしい ・さらに情報公開の機会がほしいと思います ・図鑑などで同定できないときはここにくればわかるのでしょうか ・私側の知識が乏しいため、とくに植物などはどの様に活用されているのか分からない ・活用しやすいように整理されているのはわかった ・キャラバン等への活用を評価 ・一般の人が自由に標本の閲覧ができるのかどうかがよくわからない ・出来ればもっと見学したい ・多量の標本類を無制限には公開できないでしょうし…本当に利用したい人には探すのが大変でしょうね
4	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつはキャラバン等で、外部持出し用、館内収蔵用にわけるとよい ・この様な収蔵庫を見たのは初めてでどの様に私達とつながるのかな
5	0人	

平均点：2.69

図2 情報の活用への評価と理由

点数	人数	理由
1	0人	
2	0人	
3	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・まあまあ。 ・見た限り、寄贈標本の多いことは知っているが全分野なのかどうかよくわからない。 ・蝶の収集家の方達、民間にもおられます。やはりカラーで皆の興味を引くようなものを。 ・全体像が把握できなかった。分類整理はできている。 ・面積的に今後不足する可能性があり。分類によって整理できないのでは。 ・種類・量についても比べる対象がないのと、どれくらいのものがあるのか十分に理解できなかった。収蔵品の収集については、これで十分だと言えるものは無いと思います。今後の充実に期待したい。
4	12人	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ今からの発展も考え、10年の収蔵としてはいいのでは…全部みたわけではない。 ・収納庫は最新のもの？古い博物館より進化している。 ・多分相当量と見うけられた。 ・一室は広いですが今後の収蔵を考えると不足？昆虫と植物、哺乳類に室を分けたら？ ・動物のはくせいを説明されて、研究上はあまり重要ではないとのことだが、それならば展示（活用）に出してみれば ・展示されているのはほんのわずかなんですね。 ・これからも増え続けるであろう期待をこめて4。今回の説明だけでは分からない（短時間だったため）。 ・コレクターの方の物もあり、専門的。 ・思ったより多い。 ・植物、昆虫の量がとても多いなあと感じました。 ・質、量としては充分。
5	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・膨大な標本があることがわかった。 ・私のレベルを超えている。 ・収蔵庫がすごい。 ・非常に多くある。

平均点：3.97

図3 収蔵品の種類・量への評価と理由

点数	人数	理由
1	0人	
2	0人	
3	3人	<ul style="list-style-type: none"> 作業スペースが少ない。 標本処理等が追いついていないように思った。人手不足？どっか行ってなくなりそう…。 上記の内容(②で「分類によって整理できないのではないか」と書かれている)で、整理が不十分と感じる。
4	13人	<ul style="list-style-type: none"> 入口が2重になっているのはわかるけれど、プラス、エアシャワーもつけたら良いと思う。 安全性についてはほとんど問題ないと思う。 きちんとされているような気はするが…。 大変厳格に収納されているようです。植物の色はハゲてしまうので、写真もいっしょに貼られていたらいいかと思えます。 キャビネットは整備されている。保管環境は良い。少し狭いのではないかな。 もう少し整理した方が。通路など。 保管方法？(スペース上)。 設備的にはすばらしいと思います。 保管方法としては充分。
5	16人	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの環境管理がされている。 何故レプリカが展示されている理由が分かった(恒温恒湿)。 整理管理とも、十分なされている。 初めてこのような施設をみたので、おー、すごい。さすが県のものだと思う。 害虫、湿度管理がなされていました。ただ狭い…。 整然と保管されておりました。 温度、湿度、火災、虫等の対策が◎。 品質の管理体制はしっかりしていると思う。 私のレベルを超えている。 他の古い博物館にくらべ、新しい設備が備わっていると思われる。しかし何となく造作がやすっぽく思えたのが気になります。 しっかり管理されていると感じました。

平均点 : 4.41

図4 収蔵品の保全性への評価と理由

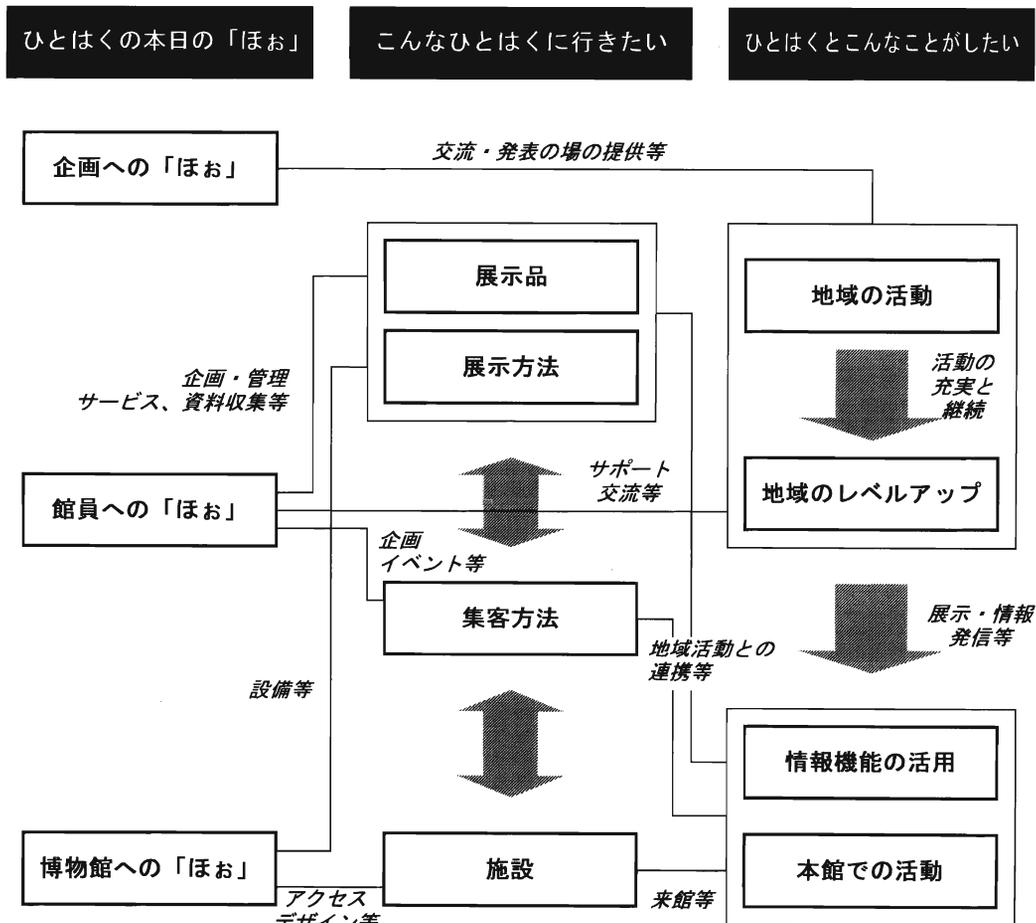


図5 検討項目の関係

説明する」だけでなく「難しいことを全く違う手法で体験させる・感じさせる」ことが必要であろう。このためには、アートやレジャーなど、学習以外の手法も用いて幅広いニーズを支える展示を考える必要がある。

人と自然の博物館と地域との連携については、最も多い意見は「地域の調査研究」である。これは、その他の「地域資源の展示」や「地域拠点づくり」、「キャラバンの充実」などの意見につながるものであろう。すなわち、地域住民は自らの行動を通して地域のことを深く知りたいという欲求を持っており、そこで得られた情報の活用および表現の場として博物館との連携を求めていると言

える。その際に必要なのが研究員であり、研究員が日常の調査・研究・啓発に用いる手法である。これは、地域の自然環境を博物館とともに知り、学び、伝えるためには、直接地域で調査・研究を県民とともに行うことを、生涯学習の手法として展開させる必要があることを示している。既存の事業を活用するならば、キャラバン事業「ひとはくがやってくる」において、研究員によるセミナー実施のみならず、地域で県民を研究員として養成する事業も実施し、生涯学習の重点事業として展開することが急務であろう。

タイトル「いつでもどこでも博物館」

ひとはくの本日の「ほお～」～今日新たに気づいたこと

【企画への「ほお～」】

<参加者>

- ・キャラクターの取り組みを継続していること。
- ・今日の集まりに20～30代が少ない。

<企画内容>

- ・今日の企画そのものにホォー。

【館員への「ほお～」】

<館員の仕事>

- ・奥の方でコンコン仕事してる人がいるんや。

【博物館への「ほお～」】

<収蔵庫の収蔵量>

- ・標本の量はすごいと思った。
 - ・へえーさようさんあるんや。
 - ・標本の量が思ったより評価されていること。
- <収蔵庫の収蔵品>
- ・もつとじつくり見たかった。
 - ・ユニット型展示を計画している？ぜひ実行して。

<収蔵庫の設備>

- ・空調等、設備が嚴重だあ。
 - ・ハード面での充実。
- <建物、立地>
- ・場所がわかりにくくまわりを何回もした。

こんなひとはくに行きたい～本館機能

【展示品について】

<地域の情報を公開>

- ・地元にある物、知らない物・事を展示した人博。
(キャラバン)

<施設を活用>

- ・標本庫の利用方法を教えてほしい。
- ・標本納入の方法が分からない。

<博物館の取り組みを公開>

- ・三種学芸員の将来像。琵琶湖博物館で実践しています。
- ・若い学芸員の方のアイデアはどんどん具体化してほしい。
- ・フィードレポーターの制度。

<研究資料を公開>

- ・文献(雑誌なども含む)報告書のコピーが手に入るような機能。
- ・紀要は入手できるのか？研究報告等。
→紀要をIPでPDFで落とせる様準備中。

【展示方法について】

<わかりやすく>

- ・ホテルでもランでも本で読んでも本場の事はわからない。(正しくない所も多い)

<学べる>

- ・家族つれで楽しく学べる。(滞在時間が長くなるように)
- ・社会人が学習できる場。

<フレンドリーに>

- ・「おーい」と呼べば「なんだい」と応える。
- ・学芸員の方との接点がない。相談コーナーなど。

<個性ある>

- ・ひょうご色がわかりにくい。(地の声っぽいもの)

ひとはくでこんなことがしたい～地域との連携

【地域の活動】

<地域の調査研究をする>

- ・風景写真の定点撮影。
- ・北播磨田原空間博物館のプログラムに先生で来て欲しい。
- ・自然ハイキング等。
- ・淡水魚の調査をされる場合はお手伝いしたい。
- ・みなさんと地域の自然について研究したい。

【地域のレベルアップ】

<館員に学ぶ>

- ・私の悩んでいる事、知らない事を聞きたい専門家がいます。
- ・地域の古い物を調べるとできてきてもそれから前に進めない。専門の方と一緒にできたら。

【情報機能の活用】

<情報の発信を行う>

- ・コンサルタントの方に活用してもらえらる情報の提供。

図6 1班の検討結果

タイトル「博物館ガンバレ！～ヨーやってる、応募するよ」

ひとはくの本日の「ほお～」～今日新たに気づいたこと

【博物館への「ほお～」】

<収蔵庫の収蔵量>

- ・広い倉庫が荷物（資料）でいっぱいばいばい！
- ・標本がいっぱいばいばい！もって見たかった。



- ・荷物がいろいろに人目にふれないものばかりだ。

<収蔵品の整理>

<収蔵庫の収蔵品>

- ・とりの標本の棚。
- ・化石を間近で見た。

<収蔵庫の設備>

- ・入口の扉と仕組み。
- ・標本保存のスペース。床・員・天井・木製。（無垢材）
- ・3 tのエレベーター。
- ・レプリカ展示の必然性が理解できた。（恒温恒湿の環境）SとFeと湿度。
- ・標本室のにおい。
- ・特展な臭い。なづけて博物館臭！Museum (colonn) コロン。

【特になし】

- ・特になし。（データ化してるかと思っていた）

みんなひととはくに行きたい～本館機能

【展示品について】

<生きたものの公開>

- ・生きた物の展示。



キャラバンを通じて感じた

【展示方法について】

<きっかけをつくる>

- ・モノも含めて情報はある。説明文もある。読めば理解も深まる。しかし読むキッカケにひと工夫ほしい……。
- ・自然に興味を持ってもらう入口。
- ・また見に来たくくなるような展示。楽しい……。
- ・季節で展示がガラリと変われば。

<わかりやすく>

- ・いつでも知りたいことの詳しい解説が聞ける。

<体験型で>

- ・学習、学者よりお勉強感覚。
- ・展示方法が教科書的（業者のマンネリ……）タッチする照明・音・液晶パネル等五感を刺激する方法を。

<世代にあわせて>

- ・幼児をつれた親子も楽しめる。触る、ひっくり返す……。
- ・子供から高齢者までもとに学べる博物館。

<レベルにあわせて>

- ・レベルに合ったプログラムをされた展示。
- ・セミナーの開催。フィールドにも。レベル分け、段階別。

<居心地よく>

- ・ここに来ればおちつく
- ・休憩するスペースが poor. 知的興奮と共に語る楽しい空間。喫茶に工夫がほしい。

<情報を発信して>

- ・広いスペースでゆっくりにみられる。（休憩しながら）
- ・情報を発信して自分が見たいものが見えるように。
- ・家でも見れるように！！一親しみがわく。
- ・情報ボックスでもっといろいろんなものがみられるように。

【集客方法について】

<イベントの企画>

- ・カタカナでなく、漢字で書こう！！イベント。



肝試し

【施設について】

<魅力アップ>

- ・深田公園を横断して建物配置されているが、その利点が生かされていない。有馬士側と広場側を同時に眺望できる工夫……。



ひととはくこんなことがしたい～地域との連携

- ・人博の入口をもっとコミュニケーションに！
- ・建物が分かりにくい。初めてのの方は必ず迷っているので、は……。道路標識（サイン）デザインが悪い。

ひととはくこんなことがしたい～地域との連携

<地域での活動>

<キャラバンを充実する>

- ・淡路から遠いのでキャラバンをもっと増やしてほしい。情報量が少ない。
- ・企画展をふやしたい。

<地域の調査研究を行う>

- ・県下、各地域ごとの観察会。広報について。地域リーダー。
- ・魚の標本作り。
- ・県内の小学校と交流をもつ。

【地域のレベルアップ】

<館員と交流する>

- ・気軽に先生方に質問できる。
- ・先生方と一杯飲みながら、いろいろなことについて時間を過ごす。お互い勉強になります。
- ・ひと博と仲良くしたい・身近に感じたい。PRも。



研究もやっているところを感じたい

<人材の発掘・育成を行う>

- ・エコ・ネットミュージアム構想はスバラシイ。抵抗勢力は存在するのでしょうか。人づくりが基本ですが。

【博物館本館での活動】

<本館で展示>

- ・博物館周辺をいやしの森に。（雑木林）

タイトル「生きた情報・人材の活用・継続」

ひとはくの本日の「ほお〜」〜今日新たに気づいたこと

【企画への「ほお〜」】

<参加者>

- ・色んな地域からユニークな方々の参加。(多くは年配の方が多かったり男性ばかりだったり)
- ・今日はいろんな人材が集まってきたなあ。

【館員への「ほお〜」】

<館員の数>

- ・知らなかった館員の方がたくさんおられるなー。

- ・博物館にこんなに多くの職員がいるののかと。

<館員の姿勢>

- ・元気のいい若い博物館員さんたち。
- ・本日の館員は楽しかった。
- ・意外ときささな先平方。

- ・館員との接点がない。
- ・貴重な資料だと言われ、入らない方がいいのではないんじゃないかという意見に驚いた。

【博物館への「ほお〜」】

<収蔵庫の収蔵量>

- ・意外と沢山の展示品があるのかと思う。

<収蔵庫の設備>

- ・ただの展示館でなく研究施設としての収蔵機能や分析機能が整備されている。
- ・収蔵庫の大きさ、広さ。
- ・収蔵庫の広さにびっくりした。
- ・作業所が少ない。

こんなひとはくに行きたい〜本館機能

【展示品について】

<生きたものをの公開>

- ・生きた物も見れる。
- ・生きている小動物も同時に見られたら。植物も。(絶滅)

子供たち(小中学生)には特に必要。大人気!

【展示方法について】

<わかりやすく>

- ・種々の?に気楽に答えてもらえるミュージアム。
- ・自分の分らないことを教えてくれる博物館。虫や植物の名前、その対応の方法。(誰に聞いていいかわからない)
- ・気楽に自然に関する相談にのって頂きたい。
- ・相談コーナーが欲しい。

<体験型で>

- ・展示よりも、体験・講習・資格認定させてくれる。

<地域と連携して>

- ・理科教員の研修センター。

<情報を発信して>

- ・館員さんが説明する機会!
- ・説明の日時の情報をより多く伝える。

<公開性高く>

- ・収蔵庫が予め申し出れば、見させてもらえる。
- ・出来れば作業している所を見てみたかった。

【集客方法について】

<イベントの企画>

- ・常に館員が何かイベントをやっている博物館。

【施設について】

<魅力アップ>

- ・「暗いイメージ」を変える
- ・色彩感をかえる。
- ・アクセスをよく>
- ・家の近くにあったら孫ときときてみたい。
- ・もっと家から近くにあったらいいのになー。

館員出張セミナー

ひとはくとこんなことがしたい〜地域との連携

【地域の活動】

<キャラバン>

- ・今年開催したキャラバンのステップアップ。
- ・集客力のあるイベントを行う>
- ・若者を引き寄せるための“音”に関するイベントを。
- ・若い女性やお母さんも行きたいと思う展示。
- ・子ども達が興味を持って集まってくる企画展とか講座をしてほしい。

<地域の調査研究を行う>

- ・定期的に「人博と巡る○○」というようなプログラムを行いたい。
- ・共同調査

【地域のレベルアップ】

<館員に学ぶ>

- ・館員やサポートする人と一緒に考え学ぶ仕組み。
- ・地域の拠点づくり>
- ・駐在さんの様に、研究員・サポートの方が、地域の一員に溶け込める。
- ・人材発掘・育成>

<人材発掘・育成>

- ・子供らに自然の雄大さ、地球規模で環境を見る目を育てる。
- ・活動のサポートをしてほしい>

<運営のバックアップをしてほしい>

- ・運営のバックアップをしてほしい。
- ・地域とネットワーク化でのイベントの企画のサポートアトドイス。

<地域活動のサポート・コティネット情報交換。>

<地域とリトラクティブな活動。影響を与え合う。>

<自分たちの地域での活動の・サポート・コーディネート続けてくれる。>



地域の活動に対して

【博物館本館での活動】

<本館で体験学習>

- ・兵庫県ならではの海・山・川を子供達に体験させる活動。
- ・本館で展示>
- ・本館では自分たちの活動を・まとめる・展示する場を作ってほしい。
- ・本館で地域をサポート>
- ・サポートセンターとしての機能。

図8 3班の検討結果

タイトル「人とふれあう、自然とふれあう

(博物館のおしながき～館員の顔とサービスがわかるように)～

ひととはくの本日の「ほお～」～今日新たに気づいたこと

【企画への「ほお～」】

<博物館の取り組み>

- ・ 環境・生き物を地域ごとと生きたまま展示してミニ博物館にしていこうという考え方。
- ・ データベースがもひとつ十分ではない。

【博物館への「ほお～」】

<収蔵庫の収蔵量>

- ・ 収蔵室がいっぱいだ。

<収蔵庫の収蔵品>

- ・ 化石の取り出し。
- ・ 収蔵庫の設備
- ・ 立派な収蔵庫。

⇄

- ・ 小さいかな？

- ・ 談話室の照明が暗い。

- ・ 2重のドア。

- ・ エレベーター。

- ・ 植物の収蔵室の天井、床が木でできていたこと。

【展示品について】

<地域の情報を公開>

- ・ 県下の生物の生態展示。
- ・ 自分の知りたいたいものがある。(県レベルで)

⇄

子供は興味・大人は教える。子供が取ってきたものを入れたい。

⇄

メンテナンスに問題がある。外で観察をした方がいい。

⇄

メンテナン스에問題がある。外で観察をした方がいい。

【展示方法について】

<楽しく>

- ・ ちよっと見に来て来ても楽しめる感じがする。展示が冷たい。
- ・ ちよっと昔の生活について展示。なつかしみたい。

<体験型で>

- ・ もっとさわれる。もって子供達の参加できる博物館。障害者の人も気軽に手にとれる博物館など。

<居心地よく>

- ・ カフェを設置して欲しい。ショップも。
- ・ カフェ充実

→民間が入ってくれない。

<情報を発信して>

- ・ ほしい自然環境情報をすぐ手に入る人権にしてほしい。
- ・ 行かなくてもすべて利用できるような“ひととはく”。

⇄

館員も反省はしている

⇄

研究員はあいさつしよう博物館もサービスだ!

⇄

(館員だけでは)手がたりない

ひととはくとこんなことがしたい～地域との連携

【地域の活動】

<キャラバンを充実する>

- ・ キャラバンに初めて参加して感じたこと。担当者以外の人は様子がわからない。(人博の担当者側の都合か)もっとどんな研究員、事務職でも内容がわかるように。横の連絡をとった方がよいのでは。

- ・ せっかく地域ですものならもっと宣伝して多勢の人に来てもらせるようにしたほうがよい。



博物館との協力体制強化

- ・ 館員が来ると・・・
- ・ 地元は何倍も影響がある。
- ・ 外の人の話はよく聞く。

<地域の保全>

- ・ 博物館の指導によるモデル里山。
- ・ 休耕田を活用した地産と協同のピオトープ。

【地域のレベルアップ】

<館員と交流する>

- ・ 人的交流。
- ・ 地域の拠点づくり
- ・ 発表を聞いて歩きながら考えてほしい。
- ・ 交番みたいな博物館。



館員住み込む。小学校をミニ博物館にしたい。1年常駐。

全体をまとめると

★博物館は・・・

- ・ 動こう!
- ・ 連絡を取り合おう! (館員同志も)
- ・ ひととはくのおしながきをつくろう。

★私たちは・・・

- ・ 情報を発信する。
- ・ にらみをかす。

図9 4班の検討結果

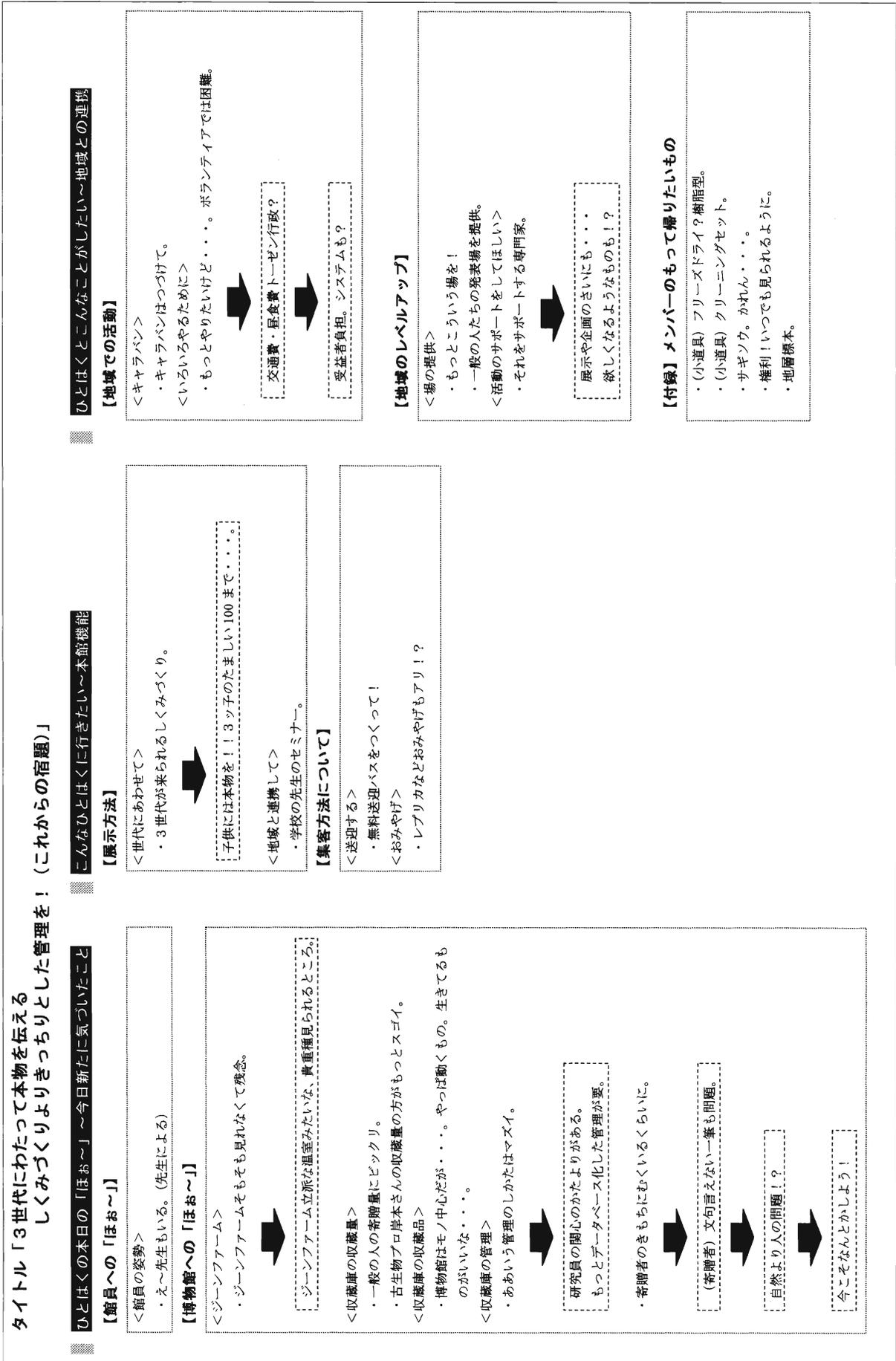


図11 6班の検討結果

タイトル「もっと教えてひとはく！」

ひとはくの本日の「ほお～」～今日新たに気づいたこと

【企画への「ほお～」】

<企画内容>

- ・業者の方が運営に多く関わっているの？

【館員への「ほお～」】

<館員の仕事>

- ・辛気くさい仕事。

<館員の姿勢>

- ・若い先生方の今後への思い。新しい挑戦。
- ・博物館から地域へ働きかける積極的な姿勢。
- ・研究員の皆さんが人慣れしていた。

☆「ほお～」に対する感想

取り組みはまだ、中途半端なのではないか。
 人博の存在はまだまだうすいのは
 辛気臭い仕事がたくさんある事を知って下さった事が嬉しい。

【博物館への「ほお～」】

<収蔵庫の収蔵品>

- ・糞虫のオオセンチの模型にホオ～。
- ・子どもがつくった？ぞうの模型。
- ・収蔵庫の中身！もっと見たい。
- ・収蔵資料の目に見える活用を考えるべきだと思った。

<収蔵庫の設備>

- ・設備がよさそう・・・？！

<建物、立地>

- ・建物がでかい。
- ・人博までの神鉄からみたらコナラの黄葉。

☆「ほお～」に対する感想

建物の場所がわかりにくい。

【「ほお～」全体に対して

「ほお～」がちよっと足りないのでは。

こんなひとはくに行きたい～本館機能

【展示品について】

<情報量を多く>

- ・博物館に来たら名前・生態・その他生物の情報が何でも分かる。(少なくとも西日本一の情報量)
- ・専門性を高く>
- ・専門性を深めてほしい。

【展示方法について】

<わかりやすく>

- ・自由に解説してもらえるシステム。
- ・フレンドリーに>
- ・多くの来館者との触れ合いがある博物館
- ・テーマ性を持って>
- ・もつとテーマを持った(しぼった)展示。

<体験型で>

- ・触れる展示物。

【集客方法について】

<特別展の企画を工夫して>

- ・「特別展」の規模、充実した人牌。巡回展もありで。

<イベントを開催して>

- ・イベントも合わせてやれば！(学校の休み時期等に)
 →近年は結構やっています。

<個性をはっきりして>

- ・目玉が欲しい。

ひとはくとこんなことがしたい～地域との連携

【キャラバンの充実】

<キャラバンへの評価>

- ・キャラバンはとて面白い。
- ・質を向上する>
- ・専門性を持つ先生方をもっとキャラバンに！
- ・人博から専門性ある講演を！
- ・本当の目玉が欲しい。いかにも手作りのぞう？

出したい！！・・・★高価★設備がこわい！

<地域資源を展示する>

- ・兵庫県下で行われたキャラバンを集約し、ここで展示してほしい。

<継続的に行う>

- ・キャラバンを根気強く続ける。

<ネットワークをつくる>

- ・キャラバンの様な活動も続けて頂き、ネットワークをつくりましょう！！

【地域での活動】

<地域の調査研究を行う>

- ・ふるさとのいいところみつけ！
- ・地域の発見。
- ・各地に埋もれている資源のほりおこし。
- ・十年計画という長期視点にたった地域との共同研究。(リサーチプロジェクト？)

【地域のレベルアップ】

<地域拠点をつくる>

- ・地域博物館の(ハコ)ものでなく・・・あっても可)設立。(キャラバンの拠点？)

<人材の発掘・育成>

- ・巡検。
- ・地域の人的資源の発掘・養成。

【情報機能の活用】

<情報の発信・収集を行う>

- ・リアルタイムの情報交換と公開(広く)

図12 7班の検討結果